

町長発!

がんばる

トーク

町長 上川元張



若桜駅構内には、営業車両のほかに機関車や客車が置いてあります。SLのC12、赤いディーゼル機関車DD16、そして青い客車3両などです。これらは、平成19年〜24年にかけて関係先から寄贈または購入したものです。10年以上が経過し、機関車はイベント時など構内で活躍していますが、客車の中には錆の目立つものもあります。

これらの車両を今後どう活用すべきか、町民、町内観光関係団体や鉄道の専門家などで構成する活用検討委員会を昨年暮れに設置し、検討を進めています。検討委員会の中では、特にDD16の本線走行を望む声が高まっています。DD16は整備状態が良く、本線走行が実現すれば全国唯一となるため、鉄道ファンの注目度も高いそうです。大変夢のある話ですが、本線走行となると鉄道車検や客車整備などコストもかかるため、運行形態も含め、十分な検討が必要となります。年度内には提案書が出ますので、今後の議論に注目しています。

今年度は、駅構内を跨いで道

の駅と結ぶ連絡橋の検討も始めることとしております。2つの駅を結ぶことで、人の往来を増やすとともに、橋そのものに観光資源としての魅力を持たせ、駅周辺のにぎわいを創出したいと考えています。車両の利活用と合わせて、鉄道の将来的な活性化につながることを期待しています。

さて、若桜鉄道の昨年度の収支決算は、3年振りに黒字に転換しました。旅行需要が少しずつ戻ってきたことや市内から八頭高に通う高校生の通学定期の利用が伸びたことで、旅客収入が増加したこと、鉄道グッズ販売などが主な要因です。燃油の高騰や、国や自治体のコロナ関連の支援金が今後は見込めないこともあり、厳しい経営は続きますが、アフターコロナの観光需要を取り込んで、収益を上げていきたいと思っております。



▲ディーゼル機関車 DD16